

第218話 美術と工芸 郷土の書家 中山町 歴史散策

柏倉南邸は、天明2年（1782年）、岡地区の柏倉九郎兵衛家に生まれ、通称敏、のち良達とも称し、6代目柏倉九郎兵衛を襲名しました。

はじめ、細井平洲の櫻鳴館に学んだと伝えられますが、詳しい事情はわかっていません。後に、仙台瑞鳳寺住職の南山禅師について漢学と書法を学びました。南邸の号は師の一字を許されたものです。

天保4年（1833年）、師の允可を受けて帰郷しました。同6年（1835年）に、前柴橋代官池田仙九郎の永年の治績を記念し、日和田村（現寒河江市日和田）に頌徳碑を建立することとなり、南邸は碑文の揮毫を依頼されています。当時、南邸の名声は高く、村山地方随一の書家と評されていました。南邸の遺墨には、岡観音堂の幟や小塩地内の大神宮碑などがあり、大文字の跡が見事です。

画家の西塔太原とも親交が厚く、ともに安政年間の「最上十狂」（10人の達人の意）の一人と称されました。嘉永7年（1854年）、74歳で亡くなりました。

【語句の説明】

細井平洲・享保13年（1728年）に尾張国知多郡平島村（愛知県東海市）平洲村に農家の次男坊として生まれた。江戸時代の儒学者。名は徳民、字は世馨、号を平洲・如来山人、通称は甚三郎、別称を紀平洲などと称した。名古屋に出て、中西淡淵に学び、長崎に遊学の後、江戸へ出て、私塾「櫻鳴館」を開き、多くの人材を育てるとともに、中国の古い書物を研究し、学者として知られるようになった。実学を重んじ、経世済民（世を治め、民の苦しみを救うこと）を目的とした彼の教えは、全国各地の大名から一般庶民まで幅広い層の心をとらえた。明和元年（1764年）、米沢藩中興の祖と言われる上杉鷹山の師として迎えられ、藩学興讓館を興して士風を振興した。遺墨：故人が書き残した書画。

※引用 中山町史 中巻 第10章第3節 文芸と美術工芸

私たち地域おこし協力隊です！ No.84



おかげさまで。先月は山形花笠まつりに『中山町わくわく花笠隊』の皆さんと参加させていただき、小学生やそのお母さんたちから元気をもらい、どしゃ降りの中でも楽しく踊りました。またお盆の時期もあってか、何度か夜空に上がる花火を観ることができました。盆地という地形は遠くまで見渡せるからでしょうか？ラッキーでした。来年は事前に県内各地の花火大会情報を得て、会場の近くまで行って観賞したいと思います。

熱い高校野球シーズンを終えて、研究開発している商品も次のステージへ進めています。山形県の食文化を参考に、より美味しくするための失敗を繰り返し、先輩方のアドバイスをいただきながら試行錯誤しています。だんだん季節が変わってきて皆さんとの会話でも『芋煮』の話題が出てきます。図々しい私は皆さんから里芋のいろいろな美味しい食べ方を伝授していただいています。

今年も【元祖“全国”芋煮会in中山2025】で『未来の芋煮レシピコンテスト』が開催されます。今年のレシピの条件に『中山町らしさ』がありました。中山町らしさとは……どんなレシピが入選するのかワクワクしますね。



阿部美恵子

出身地：栃木県鹿沼市
趣味：高校野球観戦

●協力隊への問い合わせ先● 阿部 ☎662-4271（総合政策課）